



# 福王寺だより

早いもので年の瀬であります。今年は母の他界もあり、変動の年ともなりました。留守番などいなく、失礼する機会もあると思いますが何卒ご容赦お願いします。

合掌

## お初穂志納金のお願

お初穂ってなに？

福王寺では、毎年年度末に「お初穂として」ご寄付のご案内をさせて頂いております。

檀家さんの中には、維持費と間違えられる方がいらっしやるのですが、お初穂は維持費ではありません。

「お初穂」とは、畑や海で収穫されたいわゆる「初物」を神仏へ捧げて供養する、感謝のしるしです。

福王寺でも、一年の最後に感謝の心を神仏にお供えする機会として、皆様にお初穂をお願いしております。

例年は、三千元から三万円程度、お力、お気持ちに応じて、お供え頂いております。地方の方には振り込み用紙を同封させて頂きます。

百周年事業と重なりますが、一年の思いを込めて、仏様にお供え頂けましたら幸いです。皆さまにご本尊様のご加護がありますよう。



## 人生会議

先日、「母のお話を聞かせてほしい」と町から依頼がありました。津別の在宅ケアに関するフォーラムを四年ぶりに開催することので、家族のお話もお聞きしたい

とのことでした。美幌の工藤医院の院長のお話から始まり、看護師からの津別でのケアの様子、また施設での看取りの様子など紹介されていて、様々な看取りがあるのだと感心いたしました。

実際に私が経験した津別の在宅についてフォーラムで話したこともふまえて少しお話しします。まず、母は日赤から余命宣告を受けた時に結構元気でいました。母の希望としてはなるべく家に居たいが、男手だけなので自分で排泄できなくなったら病院へ行くと言っていました。本当に気丈に出来ることは出来るだけ、朝の仏様のご飯のお供えも毎日絶やすことなく、お寺のことを一生懸命行っていました。最後寝たきりになる二日前ころには「本堂まで行けない」からお願いと云われたことが思い出されます。

寝たきりになった次の朝に、看護師さんに電話してみようと父にお願いして、私はお盆参りへ出かけました。

心配して帰ってくると、母が介護ベッドで寝ていました。「父にどうしたの？」と聞くと、「看護師さんが役場などに言っ

てくれて、在宅で看取るように段取りしてくれただ。毎日一回様子を見に来てくれるみたいだし、薬も持ってきてくれるようになったんだと」答えてくれました。朝出かけて夕方帰って来るまで、介護認定もとっていなかったのにそんな早く対応してくれていた事に驚きました。

母もそういう対応をしてくれるなら、やはり「最後は自宅に居たい」と選択したそうです。その後、在宅でも痛みや排泄に気をつかってくれ安心しましたし、妹たちも帰ってきて、母の体を拭いたり、髪の毛を洗ってあげたり、最後に少しでも恩返しを出来て満足していた様子でした。

母が生前に「死ぬなら孫たちに死をみせる」と言っていて、最後の姿は孫たちもきっと忘れられる事が出来ない思い出となったのではないのでしょうか。

在宅での看取りは人がいないと出来ないケースも多いと思いますが、フォーラムでの施設での看取りのお話も家族が喜んでいて大変すばらしかったです。

大切なのは自分がどういう最後を迎えていきたいか話すことで、それが「人生会

議」ということです。きっと病状など状況によって変わることもあるでしょう。なのでその都度コミュニケーションすることば重要ですし。普段から、口から食べられなくなったら、「胃ろう」まではしなくて良いからねとか、そんなことも人生会議なのかもしれません。

「迷惑をかけたくない」という事をよく聞きますが、最後に親になにかしてあげたいと思うのも子どもであると思います。亡くなったあとの仏壇にしてみても、親を思う場所を作ること、人を思う場所を作ることとは人生において大切なことだとも思います。

ぜひ「ウザったく」思われても、なにかの機会に話してみたいかがでしょうか。



## 行事のご案内

十二月二十一日 十時

### 「納め大姉」

今年最後のお大師様の縁日です。

福王寺婦人部中心でお参りしております。是非お参りください！

一月一日 午前零時

### 「修正会」 (初詣)

新しい年に際し、檀信徒皆様の一年の幸せを祈る御祈願をしております。

深夜1時半頃まで、お気軽にお参りください。

### 「節分・厄除け祈願、各種祈願」

二月二日(日)

福王寺 午前十一時

二月十一日(日)

北見別院 午前十一時